

○ PORPOISE

之は褐藻類 (*Ascophyllum, Laminaria*) の粉末餌料 (Seaweed meal) である。動物に必要なビタミン B₁, B₂, B₁₂, C, D, E, K 及びビタミン A 母体のカロチン, フコクサンチン等のすべてを含み, 家禽, 豚, 牛, 馬, 羊等に与えれば, ヘモグロビンを増し, 卵の色はよりよくなり, 肉も乳も栄養価を増し, 従つてそれ等を材料とした製品 (チーズ, バター等) も栄養価が高くなるとのことである。

○ MAXICROP (英国製)

生の海藻からとつた液体状の肥料である。之を直接植物にかければ, 葉からも根からも養分が吸収され, 土壤は調整されるとのこと。すべての野菜類, 草花類, 果実類, 芝生等によいと言う。Liquified seaweed (流動体) という点が面白い。

その他, 次の如きものもあつた。

○ AQUAMIN (FLAKES 及び FLOUR) 餌料

○ NEPTUNE' BOUNTY (英国製)

肥料 (Seaweed manure) 及び肥料 (Seaweed tablets, Blended Seaweed Food)

なお, 日本では海藻工業中重要な位置を占めるヨード工業はこの国ではあまり盛んでなく, 一部海岸地方で原始的な方法により製造が行われているに過ぎない。

(三重県立大学水産学部)

クロキヅタ *Caulerpa scalpelliformis* (R. BROWN) AG.

var. *denticulata* (DECSN.) WEBER VAN BOSSE の新産地

野村 義弘

愛媛県西宇和郡伊方町湊浦の三好英一郎氏が自家所有船神祐丸で, 高知県沖ノ島の防波堤工事に従事中昭和33年12月28日同島日岩岬南岸に於いて, 潜水作業により5~6尋の海底から頭大の石にスリパチサンゴとともに着生しているクロキヅタを発見採集した。わが国に於けるクロキヅタの現存産地は, 島根県隠岐島と愛媛県川ノ石町及び同伊方町の二カ所のみであつたが, 今回の発見で四国南西部海域に於ける分布の一部が更に判明したわけで

ある。

昭和34年5月26日に、伊方町松田亀久雄氏から三好英一郎氏が昨年末土佐の沖ノ島で採集したという頭大の石に附着している径45cmの石珊瑚の一種と海藻の一種の鑑定を求められたのでしらべてみたところスリパチサンゴとクロキツタであることがわかった。三好氏の談によると毎日暮方になると、海底に電燈をともしたように光る物体があるので、潜水して5~6尋の海底から引きあげて見たのであるということである。これがスリパチサンゴであり、それにクロキツタが附着していたというわけである。クロキツタ分布上貴重な一資料が得られたものである。四国南西部諸島海域にクロキツタ自生地の予見があつたのであるが、今回の発見によつてそれが実証されたわけである。

沖ノ島は四国の南西端柏島から8キロの海上にあり、周囲23キロ黒潮の激衝して来るところで水温気温共に高く、亜熱帯性生物多く土佐珊瑚の産地として知られたところである。

(昭和34年6月6日愛媛県西宇和郡伊方町湊浦 野村義弘)

カリフォルニア大学に学びて

田 中 剛

筆者は昨年度、ロックフェラー財団の Travel Grant の交附を受け、アメリカ、パークレイ市のカリフォルニア大学に学ぶ機会を得、更に旧臘、カナダ、アラスカ等の太平洋沿岸の藻類関係の研究室及び水産研究所を訪問する事が出来た。先ず昨年9月20日に羽田を發つて、ハワイ、ホノルルに一泊後、パークレイ市のカリフォルニア大学の PAPENFUSS 教授の植物学教室に直行した。同教室では、直ちに9月22日付をもつて同大学の Research Associate の辞令を交附してくれ、研究員として、日本南海産の藻類について研究に従事し、約6カ月間滞在して、予期以上の成果を挙げる事が出来た。同藻類研究室は既に広く世界に知られている如く、故 SETCHELL, GARDNER 博士を初めとして数多くの藻類学者が輩出し、現在では PAPENFUSS 教授が中心となつて居り、外国からの留学者も多数見えている。

この大学には以前、山田、瀬木、時田博士等の我国の藻類学者も留学又は訪問されて居り、藻類関係の文献及び標本の完備している事は全く驚くば